

日本語の配慮表現とその中国語訳からわかること

李丹（創価大学）

要 旨

日本語の配慮表現の語彙の記述例において、「外国語への対訳」という項目を記述したものがあある。対訳した中国語は日本語話者の気持ちが十分に伝えられていないところがあったことに気づいた。日本語学習者に配慮表現の語用論的特性を正しく理解させるため、本稿では、記述例における訳し難い三つの配慮表現である副詞「ぜんぜん」、「いちおう」、「ぜひ」を取り上げ、中国人の日本語教師に訳された内容を分析の対象とし、対照比較を通じて、表現形式の差異と意味のずれを一定程度に明らかにした。教師は配慮表現を教授する際に、対訳できない語については本土の語用論的特性に基づいた解釈の方法をとったほうがよいのではないかと提案したい。

キーワード：配慮表現、ポライトネス、表現形式、語用論的特性、中国語訳

1. はじめに

山岡・牧原・小野（2018:170-177）では日本語の配慮表現の語彙の記述例において、「外国語への対訳」という項目を記述したものがあある。（本稿では、対訳した中国語のみ取り上げる）非日本語母語話者である筆者はその「用例」を中国語で訳してみたが、「考察」という項目（配慮機能）を対照すると、訳文では日本語の話者の気持ちが十分に伝えられていないところがあったことに気づいた。例えば、以下の例文（1）、（2）における「ぜひ」は中国語の「无论如何」に訳されると、例文（1）の場合は、「请您无论如何都要来参加」の訳になり、受諾の意思を伝えて、相手に配慮を示しているが、「どうしても来てください」という親切にみせかけて、相手の行為を強制するニュアンスが含まれてしまう。例文（2）の場合は、「请无论如何要让我参加」の訳になり、「どうしても私を参加させてください」という意味で、話者の《参加》の願望を懇願しすぎるくらいに相手に訴えており、相手の行為を拘束してしまう。両言語はいずれも相手のポジティブポライトネスに配慮して機能しているが、このままの中国語訳では日本語の《依頼》の形式でもたらされた「利益・負担」や「判断は聞き手にゆだねる」の意味機能が十分に伝えられていない。逆に、このような場面では、日本語母語話者の立場から見ると、中国語の「无论如何」の強制的ニュアンスや強い意志表出することは相手に選択する余地を与えず、不快な思いを与えかねない。

(1)

A「来週のテニスの親善大会に、私も参加させていただいてよろしいでしょうか。」

B「ええ、（○ぜひ／△φ）参加して下さい。」

(2)

A「来週、テニスの親善試合があるんですが、Bさんもいかがですか。」

B「いいですね。（○ぜひ／△φ）参加させて下さい。」

以上の翻訳を通じて、両言語の表現形式と語用論的意味のずれに気づいた。その背後に含まれた両言語の話者の発想や発話態度の差異にも気づくことができる。同じ場面での配慮表現の用い方の違いが正しく理解せば、中国語直訳の違和感やコミュニケーションの摩擦を防げるのではないかと考えられる。

本稿では、日本語の配慮表現の語彙の記述例における配慮表現の用例を取り上げ、配慮表現にあまり精通していない中国人の日本語教師四名（翻訳の偏りを避けるため）に用例を中国語訳してもらい、訳された内容を分析の対象とし、日本語の配慮表現の用い方と比較する。それに基づき、表されていない日本語の表現と意味のずれを明らかにする。中国人日本語学習者に習得しにくい配慮表現の語用論的特性を理解させることを目的とする。

2. 先行研究

「B&L (1987) では人は誰でも社会生活を営む上で他者との人間関係に関わる基本的欲求を持つ。このことをフェイスと呼ぶ。フェイスには2種類がある。他者に受け入れられたい、好かれたい、という欲求をポジティブフェイス (positive face、PF) 、自分の領域を他者に邪魔されたくない、という欲求をネガティブフェイス (negative face、NF) とし、ポライトネス (politeness) を規定している。フェイス脅かし行為 (face-threatening act、FTA) は相手のフェイスを脅かす可能性のある行為を総称したものである。」

(山岡他 2018:130-131 を参照し、整理したもの)

「ポライトネスとは、会話において、話者と相手の双方の要求や負担に配慮したり、なるべく良好な人間関係を築けるように配慮して円滑なコミュニケーションを図ろうとする際の社会的言語行動を説明するための概念である。」 (山岡他 2018 : 125)

「配慮表現」について、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との人間関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現 (山岡 2015:318) 」と定義した。 (山岡他 2010:143 の定義の加筆である)

山岡 (2016) や山岡他 (2018 : 155) はポライトネスが慣習化された配慮表現ということについて、「語用論の原理 (principle) は非慣習的である。それはある表現意図を相手に伝えるという話者の動機づけが意識上に顕在化していて、話者の意志でその表現を選択したと言えるものである。」と詳しく述べている。

姫野 (2004、2016) では、日本語の配慮表現の原理について、「話し手の決定権・意志をなるべく表出しないこと」「聞き手の縄張りに踏み込まないこと」「自分を聞き手と対等な関係と位置付けないこと」と挙げている。

以上を見ると、ポライトネスが言語行動の選択を巡る方略についての理論であるが、配慮表現は固定的な文脈で言語行動が制約された場合における表現の選択に関わる理論である。他者と円滑なコミュニケーションを図って良好な人間関係を築くために、ポライトネス機能が慣習化した配慮表現は普遍性をもつと同時に、言語行動を制約する社会規範にもたらした発想や発話態度は配慮表現の個別性 (表現形式の選択と語用論的特性) にも反映しているのであろう。

3. 考察と分析

翻訳は異なる文化を持つ人々のコミュニケーションの一形態と言える。泉子・K・メイナード(2019:2)は翻訳テキストから日本語の本質を考察し、異言語間の意味のずれを通して、言語内部の本質を理解するという仕組みであると述べている。本節では、「日本語の配慮表現の語彙の記述例」における訳し難い三つの配慮表現である副詞「ぜんぜん」、「いちおう」、「ぜひ」を取り上げ、記述された「配慮機能」に基づき、発話文の中国語訳の対照比較を通じて、表現形式の差異と発想を考察し分析する。

3.1. 配慮表現の「ぜんぜん」の用例とその中国語訳の対照比較

配慮表現 ぜんぜん【全然】

配慮機能 相手が自分に対して負っている心理的負担を打ち消そうとする配慮

用例

(3) 会場を満員にした50人ほどの出席者のうち、一人がおずおずと口を開いた。「あのう、写真撮っていいですか」

杉村太蔵衆院議員が、目を丸くして人なつこい笑顔で答える。

「もちろんもちろん。全然いいですよ。写真、撮ってください」

みんなが安心したように笑い、携帯電話を太蔵クンに向ける。会場の緊張が一気に解けた。

(4) (食事中に明太子を渡そうとしている)

F021: あっ、ぼろぼろになっちゃった。ごめん。

F067: うん、全然平気。

(5) A: もし時間があつたらでいいんだけど、うちのライブに来ない?

B: あ、わたし、ぜんぜん行けますよ。

外国語への対訳 [中] 完全

(山岡他 2018:171-172 抜粋)

中国人の日本語教師四名にそれぞれ訳された発話文は以下ようになる。訳文の番号はそれぞれ a、b、c、d で表示する。(下線は筆者による) 対照分析する際に、場合によっては、配慮表現としての副詞だけではなく、共起する発話要素も含めて分析する。以下の配慮表現である副詞「いちおう」、「ぜひ」を考察する場合にも、同じく扱うことにする。

中国語訳文:

(3)'

a 当然可以, 当然可以。完全可以啊! 拍吧!

b 当然可以啊! 我完全没问题! 随便拍。

c 完全可以, 请拍吧。

d 完全可以啊, 请拍吧。

(4)'

a 没事, 一点儿不影响。

b 没事儿, 不碍事。

c 不用介意, 不要紧。

d 没事儿，我一点儿都不介意。

(5) ’

a 嗯，我肯定能去呦。

b 我一定去捧场。

c 一定会去的。

d 我肯定会去的。

対照分析：(山岡他 (2018:171-172) と齊藤 (2019:131-145) を参照した上、「ぜんぜん+肯定形」の配慮機能を分析していく。)

日本語原文 (3)：「ぜんぜん+肯定形」は《許可要求》に対して、自分の負担は小さいことを述べ、負担をかけて申し訳ないという相手の心理的負担を打ち消そうとする《許可》を示している。

→表現形式：「ぜんぜん+肯定形」は非明示的否定で間接的に相手のポジティブポライトネスに配慮して機能している。

中国語訳文 (3) ’：「全然」は中国語「完全」に訳される。

→表現形式1：完全可以 (まったくいいです) →「完全+肯定形」(訳文 a、c、d) は明示的肯定で直接に相手のポジティブポライトネスに配慮して機能している。

→表現形式2：完全没问题 (全く問題がないです) →「完全+否定辞」(訳文 b) は明示的否定で直接に相手のポジティブポライトネスに配慮して機能している。

→表現形式1、2はいずれも写真を撮ること自体についての《許可》を示している。

日本語原文 (4)：「ぜんぜん+肯定形」は《謝罪》に対して、自分の負担は小さいことを述べ、相手の心理的負担を軽減する《承認》を示している。

→表現形式：「ぜんぜん+肯定形」は非明示的否定で間接的に相手のネガティブポライトネスに配慮して機能している。

中国語訳文 (4) ’：「全然」は「完全」という中国語訳は見当たらない。

→表現形式1：没事，一点儿不影响。/没事儿，不碍事。/没事儿，我一点儿都不介意。(大丈夫、なんでもない。/大したことではないよ/わたしはまったく気にしていない) →「(一点儿)(都)+不」は「少しも～ない」(訳文 a、b、d) →全体否定を強調するより相手のネガティブポライトネスに配慮して機能している。

→表現形式2：不用介意，不要紧。(心配しないで、気にしないで、大丈夫です) →「明示的否定辞(不)」(訳文 c) →明示的否定の指示を加え、直接に相手のネガティブポライトネスに配慮して機能している。

日本語原文 (5)：「ぜんぜん+肯定形」は《勧誘》に対して、自分の負担は小さいことを述べ、負担をかけて申し訳ないという相手の心理的負担を打ち消そうとする《参加》を示している。

→表現形式：「ぜんぜん+肯定形」は非明示的否定で間接的に相手のポジティブポライトネスに配慮して機能している。

中国語訳文 (5) ’：「全然」は「完全」という中国語訳は見当たらない。

→表現形式：嗯，我肯定能去呦。/我一定去捧场。/一定会去的。/我肯定会去的。(まったく行けますよ。/必ず応援しに行きます。/必ず行くはずですよ。/必ず行くはずですよ。) →「肯

定（一定）＋肯定形」（訳文 a、b、c、d）→明示的肯定で直接的に相手のポジティブポライトネスに配慮して機能している。

以上を見ると、副詞「ぜんぜん」の配慮機能が果たした日本語の原文と中国語訳文における表現形式の差異が現れている。両言語の異なる発想も窺われるのではないかと考えられる。配慮表現としての「ぜんぜん」は否定性を含んで、「ぜんぜん＋肯定形」は否定辞を持たなくても否定的文脈を想定し、先行発話者の期待に応えるように否定的予測を共感し、非明示的に相手の心理的負担を打ち消し、相手の発話意図と呼応する用法を有するため、話者の発話意図を和らげる。さらには、「むしろ私もそうしたい」といったニュアンスも含まれるのではないかと推測する。例えば、(3)の場合は「むしろ写真を撮ってくれて嬉しい」(4)の場合は「むしろこっちのほうが食べやすい」(5)の場合は「むしろ行きたい」といった具合で、直接に「本当にそのような意思を持っている」というよりも、気持ちを言葉に託して間接的に相手への配慮を示している。それに対して、(3)'の中国語訳の「完全」は肯定、否定の両方とも呼応できるし、「完全＋肯定形/否定形」で話者の意図を断定的に、あるいは強調する意味が含まれる。つまり、話者を顕在化し、直接的で単純な手法で相手への配慮を示している。(4)'の中国語訳は全体否定を強調する。自分の都合のよさを相手に訴える。また、「明示的否定辞(不)」で明示的否定を表す。「不用」は相手の行為を指示し、主観を前に押し出した。(5)'の中国語訳の「肯定(一定)＋肯定形」は「必ず」の意味で第一人称に用いられ、話者の義務を履行する気持ちを強く表出し、相手の心的負担を配慮することより相手の面子を立てるための親切な態度を示すことがメインだと考えられる。

3.2. 配慮表現の「いちおう」の用例とその中国語訳の対照比較

配慮表現 いちおう【一応】

配慮機能 《依頼》などの要求系の発話を行う際に、要求の度合いがあまり高くないと相手に感じさせる配慮（緩和表現）/自賛を含んだ発話を行う際に、謙遜の原則に従ってそれを自賛であると取られないようにする配慮（謙遜表現）

用例

(6) だけどまあ一応、私の願いということで、お聞きいただきたいと考える次第であります。

(7) 面接の時にはくわしい説明が無かったんですが、お恥ずかしい話ですが税理士事務所事態（原文ママ）具体的な仕事内容を把握していません。一応簿記2級持っていたので採用されました。

対訳 [中] 也算，还是，基本，大致

（山岡他 2018:173-174 抜粋）

中国人の日本語教師四名に訳された発話文は以下のようなになる。

中国語訳文：

(6)'

a 这些大致就是我的请求，希望您听一下。

b 可是，嗯，能否请您暂且先听听我的请求。

c 但是总之，是我的愿望希望你能听一下。

d 我暂时的一个请求，希望您听一下。

(7)'

a 只是因为有了2级簿记证书而被采用了。

b 就因为持有簿记2级证书，就被录用了。

c 总之因为有簿记2级所以被录用了。

d 也算因为有个簿记2级所以被录用了。

対照分析：(山岡他(2018:173-175)を参照した上、「一応」の配慮機能を分析していく。)

日本語原文(6)：「一応」は《依頼》の要求度を緩和するにより、相手のネガティブポライトネスに配慮する。原義(十分ではないが、ひととおり。大略。)は喪失している。→表現形式：非明示的否定で間接的に相手のネガティブポライトネスに配慮して機能している。

中国語訳(6)'：「一応」は「大致」という中国語訳が見当たる。

→表現形式：大致、暫且、总之、暂时(直訳：おおよそ、ひとまず、とにかく、一時的)

→対訳したそれぞれの副詞は単独で用いられると配慮を示していない。訳文全体は明示的相手のネガティブポライトネスの配慮を示している。→けど、うん、私の願いはこれくらいで、聞いてほしいです。(訳文a)しばらく私の意見を聞いてくれませんか？(訳文b)けど、とにかく私の願いをきいてくれませんか？(訳文c)一時的な願いですが、聞いてくれませんか？(訳文d)

日本語原文(7)：「一応」は話者が自賛を含んだ発話を行う際に、自賛にとられないようにする配慮(謙遜表現)。

→表現形式：→非明示的否定で間接的に相手のネガティブポライトネスに配慮して機能している。

中国語訳(7)'：「一応」は「也算」という中国語訳が見当たる。

→表現形式：只是、就、总之、也算(直訳：ただ～だけ、ほかでもなく～だ、とにかく、～といえる)

→対訳したそれぞれの副詞は単独で用いられると配慮を示していない。訳文全体でも配慮を示していない。

以上を見ると、副詞「一応」の配慮機能が果たした日本語の原文と中国語訳文における表現形式の差異が現れている。両言語の異なる発想も窺われる。(6)'の中国語訳の意味は「わたしの一つの「お願い」と言えるかどうかわからないけれども、とりあえずお願いしますという懇願の気持ちを表す。」ということであるため、「一応」の「要求度の緩和」の意味が読み取れない。特に、《依頼》を達成するために、「希望您」を用い、自分の願望を強く表出し、相手の承認を強く望む気持ちを表すので、要求度の緩和の意味が見当たらない。(7)'の中国語訳(訳文a、b、c、d)の意味は「ただ、簿記2級を持っているだけで、採用されました。」というものである。つまり、簿記2級を持つことは採用される必須の条件になる。特に、訳文bにおける副詞「就」はさらに採用される原因を強調する。話者の謙遜の気持ちが伝わらず、むしろ採用されたのは簿記2級という資格のおかげで、運がいいということを伝達している。

3.3. 配慮表現の「ぜひ」の用例とその中国語訳の対照比較

配慮表現 ぜひ【是非】

配慮機能 相手の要求を受諾することが自分にとって負担ではなく、むしろ利益であるとして、相手の心理的負担を軽減しようとする配慮

用例

(8)

A 「来週のテニスの親善大会に、私も参加させていただいてよろしいでしょうか。」

B 「ええ、(○ぜひ/△φ) 参加して下さい。」

(9)

A 「来週、テニスの親善試合があるんですが、B さんもいかがですか。」

B 「いいですね。(○ぜひ/△φ) 参加させて下さい。」

外国語への対訳 [中] 无论如何

(山岡他 2018:175-176 抜粋)

中国人の日本語教師四名に訳された応答発話文は以下のようになる。

中国語訳文：

(8) ’

a 可以，请一定参加！

b 当然，你务必要来啊。

c 请你一定要参加。

d 可以，请您一定来！

(9) ’

a 好啊！十分想参加。

b 好啊，无论如何我一定去。

c 请一定让我参加。

d 太好了！请一定让我参加。

対照分析：(山岡他(2018:175-176)を参照した上、「ぜひ」の配慮機能を分析していく。)

日本語原文(8)：「ぜひ」は相手の《許可要求》に対する受諾の意思表示をする際に、《依頼》の形式を取って、利益や歓迎の気持ちを伝え、相手の心理的負担を軽減しようとする配慮表現となる。

→表現形式：「ぜひ+てください」は相手のポジティブポライトネスとネガティブポライトネスに配慮し、相手に関する利益を軽減する機能を果たしている。

中国語訳文(8) ’：「ぜひ」は「无论如何」という中国語訳は見当たらない。

表現形式→一定、务必、一定、一定(直訳：必ず~しなければならない。)→対訳した副詞は相手の行為を強制することにより明示的に相手のポジティブポライトネスの配慮を示す。

日本語原文(9)：「ぜひ」は相手の《勧誘》に対する《参加》の意思表示になる。《許可》の形式を取って、選択権は相手に委ね、相手のネガティブフェイスにも配慮する。

→表現形式：「ぜひ+させてください」は自分に関する利益は大きいと述べ、相手の《許可》を強制しない配慮を示す。

中国語訳 (9) ' : 「ぜひ」は「无论如何」という中国語訳が見当たる。

表現形式→十分想参加(訳文 a) 无论如何我一定去(訳文 b) 请一定让我参加(訳文 c、d) (直訳: とても参加したいです。/何があっても必ず行きます。/必ず参加させてください。) →相手のポジティブフェイスに配慮するが、ネガティブフェイスには配慮しない。

以上を見ると、副詞「ぜひ」の配慮機能が果たした日本語の原文と中国語訳文における表現形式の差異が現れている。両言語の異なる発想も窺われる。(8) ' の中国語訳の意味はいずれも話者の歓迎の気持ちを率直に表出し、相手の行為を強制することにより親切心を示す。むしろ相手に利益を与え、相手の面子を立てる気持ちを示す。(9) ' の中国語訳文 a、b は話者の強く参加したい気持ちを直接に表出する。訳文 c、d は相手の《許可》行為を促し、要望の実現のために相手に強く働きかける。

4. まとめと今後の課題

以上の中国人日本語教師四名に訳された配慮表現の用例の訳文と原文を対照分析することを通じて、表現形式の差異と訳文の意味のずれということがわかった。そして、日本語の配慮表現の語用論的特性も窺われる。まとめてみると、まず、配慮表現としての副詞「ぜんぜん」は話者が否定的文脈を想定し、相手の心理的負担の打ち消しを重視する。その中国語訳は相手の心理負担より相手の面子を立てるための親切な態度を示すことを好む傾向が見られる。表現形式の背後にある日本語母語話者の「心的負担」を十分に認識できていないため、話者の意図性を露骨に伝達したことが訳文に反映している。次に、配慮表現としての副詞「いちおう」は非明示的否定性を有し、緩和や謙虚で控えめな機能を有している。その中国語訳は日本語の配慮効果を伝達していない。表現形式の背後にある日本語母語話者の「心的負担」や「自身の関与の軽減」に対する認識を十分に理解できていない。最後に、配慮表現としての副詞「ぜひ」は《依頼》の形式を取って、自分に関する利益は大きいと述べ、相手に関する利益や負担を軽減し、自分の要望を弱める機能がある。その中国語訳は相手の行為を拘束し、説得や要望を強める機能になっている。表現形式の背後にある「利益・負担」や「親しき仲にも礼儀あり」という日本人の配慮意識を十分に理解できていない。

本稿では配慮表現の用例を取り上げ、その中国語訳との対照分析を通じて、両言語の表現形式の差異と意味のずれを一定程度に明らかにした。日本語母語話者はコミュニケーションする際に、明示的表現を避けること、相手の心理的負担を軽減すること、押し付けを避けることなどを好む傾向がみられる。否定辞を使用せず否定的語用論的特性を持つのではないかと考えられる。配慮表現はそれに現れた社会規範や文化背景を離れると深く理解できないため、日本語教師は日本語学習者に習得しにくい配慮表現を教授する際に、対訳できない語については本土の語用論的特性に基づいた解釈の方法をとったほうがよいのではないかと考えられる。日本の社会や文化を感知しながら、配慮表現の本土の語用論的特性をさらに掘り出し、対照研究を進めることは今後の課題とする。

付記 本稿の執筆に際し、データをご提供くださった中国の大学の日本語教師四名の方に心より感謝を申し上げます。

参考文献

- 斉藤幸一（2019）「配慮表現としての『“全然”＋肯定形』」山岡政紀編『日本語配慮表現の原理と諸相』くろしお 131-145
- 泉子・K・メイナード（2019）『日本語本質論—翻訳テキスト分析が映し出す姿—』明治書院 2
- 姫野伴子（2004）「日本語教育と配慮表現（連載）配慮表現からみた日本語⑫」『日本語』第16巻第3号アルク 76-79
- 姫野伴子（2016）「配慮表現の指導」『日本語教育の研究』日本学研究叢書第9巻外語教学と研究出版社
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門』明治書院 143
- 山岡政紀（2015）「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『日本語用論大会第17回大会発表論文集』10 日本語用論学会 315-318
- （2016）「配慮表現の慣習化と原義の喪失をめぐる一考察」『日本語コミュニケーション研究論集』5 日本語コミュニケーション研究会 1-9
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹（2018）『コミュニケーション理論から見た日本語—日本語語用論入門』明治書院 125、130-131、155、170-177

（李丹、創価大学文学部助教、lidan@soka.ac.jp）